



千地申7号

「ATOS化千葉延伸による運行管理システム化に伴う体制の見直し」に関する団体交渉を行う！その①



1、「ATOS千葉延伸による運行管理体制のシステム化」について、施策の目的と千葉支社内の輸送業務の将来像を明らかにすること

【回答】業務のシステム化や集約化を行い、より安全で安定した輸送サービスの提供ならびに効率的な業務執行体制の構築を目的とし実施しているものである。

【議論内容】

- ・システム導入により安定した取り扱いができるため、人と機械を合わせてより安全で安定した輸送サービスが提供できるという考えである。
- ・今施策により、千葉駅信号所や蘇我駅信号所で行っていた信号制御を、指令で行うようになる。
- ・幕張駅や津田沼駅ではATOS区間であっても信号所があり、構内の制御を行っているが、千葉駅構内の東千葉電留線や黒砂信号所などの制御は、指令で制御可能であると判断した。
- ・列車連結時等の誘導信号機の点灯の取り扱いについては、連結準備終了後にホーム担当から整理担当へ連絡し、整理担当から指令へ連絡して、連絡を受けた指令員が誘導信号機を現示する。
- ・今後も運転取扱い業務のシステムのスリム化を進めていくが、運転取扱い業務は必ずなくなるものではない。残る業務であるがそれは駅での業務ではなく、指令での業務であることもある。

2、施策実施後のポイント清掃・点検のあり方、列車見張員の育成について明らかにすること

【回答】業務に必要な教育・訓練については実施していく考えである。

駅の作業ダイヤについては、社員の声に踏まえて作成していくことを確認！

【議論内容】

- ・千葉駅の構内作業はポイント清掃のみである。
- ・今後のポイント清掃は、ホーム社員など行うことで調整している。
- ・ホーム社員が行う場合の作業ダイヤは駅で決めている。また、駅の作業ダイヤは現場での組み立てで作っており、作業ダイヤの変更などは社員の声に踏まえて作成している。
- ・見張員について、12月22日以降は整理担当以外の社員も見張員が出来るように育成していく。

3、輸送指令と千葉駅との連絡体制を明らかにするとともに、異常時を含めて確実に連絡が繋がる体制を確立すること

【回答】基本的には千葉駅整理担当が窓口となり、東京総合指令室ならびに千葉指令へ連絡を行うこととする。

【議論内容】

- ・今後の連絡体制については、整理担当が各箇所に情報を伝えていく。
- ・輸送混乱時などで、列車の順序、番線の変更などが発生した場合の連絡は、千葉駅、東京総合指令、千葉輸送指令の3者電話で行う。
- ・構内作業時、急遽列車を止める手段としては、見張員がいるのでそこで停止させる手段を取る。また、IP無線やトークバックを使用することも出来る。

4、千葉駅整理担当の業務内容を明らかにするとともに、運転整理業務に集中できる体制とすること

【回答】整理担当については、これまで同様に東京総合指令室ならびに千葉指令への連絡、各指令から取得した情報を駅事務室、各ホームへの情報伝達を行うこととなる。

【議論内容】

- ・整理担当は、異常時対応などを考慮して輸送当直1名、整理担当1名の2徹体制とした。
- ・整理担当は運転整理業務に集中できるよう、基本的には車いすの対応に行くことはない。
- ・整理担当は駅長事務室の一角に配置し、営業とのやりとりもしやすくする。
- ・業務に集中できないなどの問題があれば、意見を聞いて変更するなど現状に応じて対応する。

その②へ